

平成 29 年 12 月 14 日 (木)

15:30~17:00 会議室

記録：八巻

出席者…桐ヶ谷、高橋、大河内、村川、大下、川島、水嶋

佐久間、碓井、齋藤、藤井、佐藤竜、牛島、佐藤潔、八巻 (敬称略)

はじめに 副校長より資料確認

欠席の委員 2 名 (岩佐、松方) の中間報告に対する評価報告 2 枚を追加。

○校長あいさつ

3 年生の進路が決まり始め、指定校推薦は 11 年半ばから発表がスタートした。進路決定者の中にはほっとして中だるみしている生徒も見受けられるが、神奈川大学給費生試験を力試しで受ける生徒やセンター試験・一般入試に向けて頑張っている生徒もいる。授業は 21 日 (木) まで 40 分授業×6 時間、22 日 (金) 40 分授業×3 時間行った後、終業式となる。生徒達は寒い中頑張っている。多くの意見をいただきたい。

○学校評価 (中間報告)

1. 教育課程学習指導について (学務 G リーダー齋藤より)

1) 選択科目

新学習指導要領で平成 34 年度からの「公共」という科目の新設を視野に入れ、自由選択科目で倫理を新設、20 名弱の希望者があった。今後の課題は、新学習指導要領や新たな大学入試形態 (英語 4 技能など) を視野に入れて対策を行っていくことである。

2) 朝学習・週末課題・スタディジョギング

週末課題は、入学後スムーズに高校での学習に取り組んでいけるよう 1 年生の 1 学期前半に中学の復習を行った。高校生活を始めるにあたっての意識づけになっている。

1・2 年生で行っている朝学習 (始業前 5 分ほどで実施) は、1 年生は英単語・数学・漢字・社会・理科の全教科の小テストを、2 年生は英単語中心の小テストを実施している。2 学期は中だるみの時期でもあるが、毎日の学習習慣をつけるという点で概ね成功している。

スタディジョギングは、試験前放課後の 1 時間の自習時間に、教科担当者が巡回し質問を受けるスタイルで行っている。2 年生後半になると、残らずに自主的に学習に取り組みたいという生徒も見受けられるようになる。少々過保護であるようにも感じられるので、今後のあり方を検討していきたいが、概ね成功しているといえる。

以上の点について、数字として顕著な効果を認めることはできていないが、自学自習・学力向上に効果があると考えている。

3) 夏期講習

昨年度の受講者は 165 名、今年度は 181 名とわずかではあるが増加傾向、定着しつつあると感じる。課題は、講座の設定・生徒に対するアナウンスが遅れがちであること。生徒が予定を組む前に選択できるように準備していきたい。

4) 授業改善研究については広報企画 G より報告する。

2. 学校管理・学校運営について 〈総務 G リーダー藤井より〉

本校は土砂災害警戒区域にあたるため、グラウンド～体育館にかけての土砂に対して備え、意識を持つことが必要である。防災アドバイザーでもある水嶋会長に PTA での取り組みも含めて指導いただいている。

取り組みとしては、2・3 学期の始業式に体育館に於いて、また授業中にもシェイクアウトを計画、実施した。水嶋防災アドバイザーによる提言のもと、教員もともに参加し、夏休みには DIG 研修も行った。G 祭では防災に関する展示、12 月に 1 年生対象の防災講話も行った。10 月には全校で避難訓練も実施したが、天候不良により途中まで避難し教室に戻るといった形式になった。

校内の不安箇所もチェックしていただいたので、今後予算と折り合いをつけながら改善を図り、子供達が安心安全に過ごせる環境美化・環境整備を行っていきたいと考えている。

3. 進路指導・支援について 〈進路 G リーダー佐藤竜より〉

3 年生は AO 入試・推薦入試が始まっており、結果があがってきている。AO・公募に挑戦しているのは、概ね入学当初より部活動・学校行事などにも積極的に参加してきた生徒達である。

現時点では横浜国立大学、広島大学に 1 名ずつ AO 入試で合格者が出ている。指定校推薦に関しては 70 名ほどが出願し、結果も徐々に集まってきているところである。

1) 面談週間について

時期ごと、学年ごとに目標・ポイントを設定して指導を行っているが、面談に確保できる時間が限られているため、短時間でポイントを押さえた指導が必要である。必要な生徒に時間がもう少し確保できればいいと感じている。

2) 進路ガイダンス

3 年間を通して形は出来上がっているのですが、今後は細かい部分について整備していきたい。目標を持たせられるような具体的な手立てを模索中である。

4. 授業改善について 〈広報企画 G リーダー 牛島より〉

研究チームを立ち上げ、教科を超えて授業を見る試みを行っている。授業のあり方に関しては、生徒自身が友達と話し合いや発表を行うなど、行動しながら展開する、受身ではなくて主体的である姿勢が大切であると考えている。また、他の教科の授業を見ることや、生徒の立場ではどうなのかという視点ももって、よりよい方向を探って行きたいと考えている。

校種を超えた研修の実施は難しいが、夏休みや土日に近隣の大学を会場とする協議などに参加し、どのように深い学びへつなげていくか模索中である。

地域連携に関しては、部活・委員会・学年でワークショップを実施、今後職業インタビューなども実施していく予定である。そのような行事をきっかけに、地域の活動に個人で自主的に、そして継続的に参加していく生徒が増えていくことを望んでいる。

5. 地域等との協働について 〈生徒会指導 G サブリーダー佐藤潔より〉

防災訓練やイベントには例年通り参加し、部活・委員会の指導の一環で実施している。(野球部が駅

前までごみ拾いするなど) 生徒達の日常生活は落ち着いてきており、自分のことは自分でできるようになっていると感じている。

G 祭に関しては、運営する生徒達も集まり、1年から3年になるにつれて経験も増え、幹部となって動けるように成長している。現在、生徒達から今までのあり方を変えたいと提出された来年度の改革案を支援するため、各グループにも打診し意見をいただいている。心配する声もあり、生徒達の考えが通るかどうかは不明であるが、引き続き生徒総会などで審議していく予定である。

前回指摘いただいた部活の部員数については部活によってバラつきがある。100名を超える吹奏楽部、70名以上のフォークソング部、約50名の陸上部から柔道・空手の各1名と様々である。傾向としては文化部の部員数が減る、活躍が顕著な部に入部する、漫画・アニメなどの流行に左右されるなどの特徴が見受けられる。しかしながら、生徒達がどの部活に入るかということは流動的であり、その他にも家庭環境や経済状況なども関係している。また部活数については、予算や教員の数などにも関連がある。文化部の減少など、心配なところが増えているのが現状である。

6. 生徒指導・支援について (副校長より)

生活面において多少の問題はあるが、いじめ、SNSなどのトラブルに関しては問題なく、生徒は真面目であり落ち着いている。メンタルに問題を抱える生徒が増えつつあるが、それに対応できるよう、情報共有を図り、教育相談担当役を置き組織的な対応・支援を行っている。誰が窓口なのかを周知することが今後の課題である。

7. 学校管理運営について (副校長より)

常に意識を持って取り組むという面に関しては職員全体への浸透が弱い印象がある。生徒の視点に立ってよりよい学校作りを目指し、コミュニティースクールを活用しながら意識作りをしていきたい。

学校運営協議会も昨年度は3回だったところを、今年度は2回増やし5回としている。今後は各部会の充実を図るため、育みたい生徒像と課題を明確にしてより具体的に話し合いをしていければと考えている。

○意見交換

1. 視点1 教育課程・学習指導

大河内 高校の入学試験を終えてモチベーションの下がった生徒の気持ちを引き上げるのは大変である。先生が親身になって、何を優先すべきかアクションを起こしてくれることが大切。先生達はうまく関わってくれていると思う。授業改善はPDCAサイクルにResearchとVisionを足して、目的を持ってやっていく姿勢を出すこととよいのではないかと。軌道に乗るには時間がかかるが、教員の頑張る姿が生徒のモチベーションになる。

村川 理科ハウスを活用していくとよいのではないかと。総合的な学習だけでなく普通の授業にも取り入れていくとよい。

桐ヶ谷 朝学習・スタディジョギングのスタートはどんなものだったのか。

斎藤 昨年テストケースで1年生が実施、今年度は2年生と1年生が行っている。

桐ヶ谷 学習を日頃の習慣にすることは非常に大切である。生活のリズムをつくるのも大事。やっていることは間違いない。自信をもって取り組んで欲しい。

川島 夏期講習について、専門的なテーマは生徒が受けたいテーマと合致しているのか。教員と生徒間で情報交換ができればより生徒が必要としているものへ変わっていくのではないのか。朝学習・スタディジョギングはコツコツ積み上げることが大事。進路に結びつけていく、手の届く目標に到達していく術であり、さらには高い目標・一般入試に結びつけていくのではないのか。

2. 視点2 生徒指導・支援

川島 まずは窓口が誰なのか周知する。自分から言える生徒は大丈夫だが、自分から言えない生徒に対しては日頃の関わりの中で教員が気づくことが必要である。

高橋 生徒が教員に気軽に声をかけられる雰囲気作りも必要ではないか。教員側の気持ちが生徒に見えることも大切である。

大河内 チームとして支援に関わっていく計画も必要である。情報の共有を図り、機能できる形で次年度へ引き継げるとよい。支援した後のフォローも大切、その機能も。

3. 視点3 進路指導・支援

高橋 中学・高校からのシチズンシップ教育が大学キャリア教育に繋がる。色々な意識を持つことが大切、生徒達にも問題意識を持つように啓発していくべきである。

川島 目標を実現するために今何が必要なのかを考えさせ、今すべきことを行動に結びつけていくことが大事。

4. 視点4 地域等との協働

村川 総合的な学習で実施する地域インタビューに関しては、担当者が決まり次第すぐに打ち合わせをしたい。その年度の取り組みを早めに決定しないとその後の実施が厳しいものとなる。今年度は、今までの反省から、質問を積極的にすることと事前の下調べをしっかりとすることに留意して欲しい。詳細に関しては今後担当者と連絡をとりながら実施していく。インタビュー終了後の内容の報告については、教員だけでやらなくても手伝ってくれる人材として市民ボランティアが確保できている。

川島 協働に関わってくれる人がいるのは今までの積み重ねがあつてのことであり、大変ありがたいことではないか。

大河内 地域と生徒の橋渡しは、学校から発信していくことが大切。学校がイニシアチブをとって受け入れるところと受け入れられないところをきちんと伝えて関係性を創っていくことが重要である。

5. 視点5 学校管理・学校運営

桐ヶ谷 PTAの水嶋会長に担当していただけるのはありがたいことである。今後もいい方向に進むように頑張ってもらいたい。

6. その他

水嶋 地震・津波・土砂災害に備えた危機管理を充実させ、命に対しての備えを充実させる。

生徒達の中に自己表現ができるものが少ない。3年間の高校生活を何のために過ごすのか、教員に対する態度、道徳なども教えるべきである。

大下 Z-Selecのみしか関わりがないが、それぞれの分野にとどまらず、全体を通して様々な場面での社会人としての行動の仕方なども教えていく必要がある。

○その他

次回の予定確認を行った。